**授業づくり研修講座　「論理的な文章を書く力を高める指導」実践レポート**

栗原中学校　　森尾　宙

≪　実践内容　≫

　現在、中学校の２年生に数学を教えている。研修講座の主題である「文章を書く」という実践を授業に盛り込むことがなかなかできなかったので、１回目の講義で学んだ「評価を明確にする」という点に着目して、レポートをまとめたい

　私の担当している数学の授業では、問題集を教材のひとつとしている。授業中の演習の合間や、家庭での復習など、生徒一人ひとりが自分のペースで問題集を活用することを目指している。教師側としては、年５回ある定期テストのたびに範囲を指定し、それまでの取り組みについて評価を行っている。

　当初は、「今回の範囲は○ページまで。」といった指示しかしていなかったため、白紙で提出する生徒や答えを丸写しするなど、本来の意図が達成できない状況が続いた。そこで、生徒が取り組みやすいよう、範囲の提示だけではなく、評価の観点を具体的に細かく書くことに取り組んだ。

　以下にまとめたものが、評価の観点と提示の工夫である。

　・問題集は各自が自分の練習をするためのものであることを伝える。

・提出日の２週間前には提出範囲を伝える。

　　　→提出のために取り組むことが目的ではないことを意識させる

　・評価の観点が、①関心・意欲・態度、②技能、③見方・考え方の3つであることを伝えた。

　・各３点で９点満点、「○／９」というように、具体的な数値を記入して返却

　　　→①関心：丸つけをしてある。空欄がない、解き直しをしている

　　　　②技能：途中式が書いてある。間違えた問題は解答を写す

　　　　③考え方：間違えた問題の原因を書く（計算ミス、文章の読み取り間違い）、

　　　　　　　　　解き方・ポイントについて解説がある

　・満点の評価の問題集を掲示

　　　→具体的な見本の提示と、選出生徒のモチベーションを高める

　評価を細かく伝えることで、生徒自身も次の課題が明確になり、「やれば終わり」という意識から、「ここまでやればよい」という意識への変化が見られた。自分の取り組みを具体的に判断し表現することで今後の学習の手立てになっているように感じた。

　１年生からの積み重ねでもあるので、今後も継続して指導に当たりたい。